

令和7年度秋田県立図書館協議会 要旨

- 1 開催日時：令和8年2月19日（木） 午後1時30分～午後3時
- 2 会場：秋田県立図書館 3階多目的ホール
- 3 出席者：会長 高橋 秀晴
委員 伊藤ひろみ
〃 小野 裕奈
〃 利部 久孝
〃 川越よし子
〃 九嶋 洋子
〃 後藤日菜乃
〃 三戸 忠洋
〃 霜鳥 秋則
〃 藤澤 昌
〃 武藤奈津希
〃 村山 喜宏
事務局 田中 博光 秋田県立図書館長
成田 亮子 〃 主幹(兼)情報チームリーダー
小山田 希 〃 主任図書専門員(兼)図書資料チームリーダー
嵯峨 進 〃 副主幹(兼)サービスチームリーダー
芳賀奈央子 〃 副主幹(兼)企画・広報チームリーダー
千田 育栄 〃 分館あきた文学資料館主査

4 議事概要

- (1) 開会
- (2) 委員紹介
- (3) 事務局職員紹介
- (4) 図書館長あいさつ
- (5) 会長選任
- (6) 議事

■表記について（●：委員、→事務局）

①令和7年度秋田県立図書館の活動状況について（田中館長及び各チームリーダーから説明）

●学校図書館等に対する貸出しは、学校からの要望を受けて行っているのか。また、図書館セミナーの広報はどんなところでされているのか。

→学校貸出については、学校の担当者から借りたい本を所定の様式で送っていただき、宅配便で送付している。セミナーについては、SNSやチラシ、ポスターの設置等館内外での広報のほか、新聞の広告欄にも掲載していただいている。

●石川達三の草稿について説明があったが、今後の公開予定等はあるか。

→ 草稿等は、秋田を代表する作家の作品で、県外に流出してしまったものを、また秋田に戻すようなイメージで毎年定期的に購入している。今後は、閲覧室のガラスケース等で公開できたらと考えている。

●石川達三に関しては、以前、書簡類を購入して記者会見したところ非常に話題になっていた。今後はさらに、そうしたものも視野に入れながらお願いしたい。

②秋田県立図書館への要望・提言等について

●デジタルアーカイブは現在約 61 万件が検索可能とのことだが、実際の資料の画像が見られるのは何件あるのか。また、今後は、画像データが見られるものをどれくらい増やしていく予定か。

→デジタルアーカイブ中には、図書館、公文書館、文学資料館のものが含まれており、そのうち県立図書館の部分は約 44 万 2 千件である。さらにそのうち画像が見られるものについては約 2 千点である。それ以外のものはほとんどが「索引」となっており、秋田魁新報の見出し索引や雑誌記事索引等、調べ物に活用する索引が主なものである。画像の更新については、職員がスキャナーを使って少しずつ登録しており、一昨年度は伊藤永之介文庫のデジタル化を行った。来年度は、以前デジタル化したデータの解像度が良くないものの更新や、郷土資料の地図などのデジタル化を進めていこうと考えている。

●デジタル化する上では、何を優先して行っているのか。

→まずは、著作権の問題をクリアしていることである。その上で、来年度以降、郷土資料のビジュアル的なものを充実させることを優先したい。また、レファレンスに使える古い雑誌や新聞等も今後検討していく。

●資料の保存状態も関係してくるかと思われる。例えば、伊藤永之介の資料のように戦時中の日記等貴重なものを発信することによって、関連する情報がさらに集まることが予想されるため、今後も地道に続けていただきたい。

●寄贈の受け入れに関して、基準はあるのか。また、購入等により、蔵書が年間で 2 万冊ほど増えているそうだが、書庫の収容能力を踏まえると収容は可能なのか。

→寄贈の受け入れは、収集要綱に基づき行っている。秋田県に関係する資料については寄贈されたものは全て受け入れるようにしているが、一般の寄贈資料については全てを受け入れるのが難しいため、当館として必要か否かを判断した上で選別して受け入れている。御指摘のとおり、書

庫の余裕は無くなってきているため、今後は複数ある資料の廃棄をしていくなどの方針を立てて整理していかなければいけないと考えている。

●取組の一つとして市町村立図書館への支援があるが、他の図書館の取組を知る機会はなかなか無い。先日、県立図書館が県内の図書館を回った成果を報告する研修会があったが、そうした取組を今後も継続してほしいと思う。また、県立図書館の資料に「ビブリオバトル出場本」というシールが貼られているのを見たが、そうした他の活動と連携した取組を行うことは、利用者の興味を引くことに繋がるため大切だと感じた。

→今後も訪問した図書館で収集してきた内容を情報共有していきたい。

●活動状況の説明において「公立図書館」「公共図書館」「学校図書館」という単語が使われていたが、それぞれどのように区別されているのか教えていただきたい。

→「公立図書館」は設置が自治体である図書館であり、広く一般の方が利用できる図書館である。一方で、「学校図書館」は学校の中に設置されている図書館であり、利用できる者が限られる。県立図書館と市町村立図書館は全て「公共図書館」に当たり、中でも県立図書館は県内の市町村立図書館を支援するのが大きな役割になっている。「学校図書館」は所管している役所が異なってくることもあり、訪問や助言は市町村立図書館に対して行っている。

●令和8年3月1日より公式SNSとしてInstagramを新たに開設するとあったが、若い世代からの利用も促進できる良い取り組みだと思った。ストーリーズなどの機能により学習席の空き状況などの情報を発信していただけると、来館したにも関わらず席が空いていないことによる無駄足を防ぐことができ、利用の促進になるのでは思った。

→SNSは若い世代の方々に見ていただきたいという意図がある。ストーリーズや即時性のある情報発信については、公的な情報としてどこまで発信できるかという課題もあるため、検討しながら取り組みたい。

●電子書籍の貸出しはされているか。

→電子書籍サービスは現在行っていない。平成24年から平成30年までサービスを行っていた時期があったが、コンテンツが限定的で魅力あるものが提供できず利用が低迷したこと、契約の制限があったことなどから一旦中止した。現在は多くの図書館で電子書籍サービスが開始されているため、今後は前向きに検討しなければいけないと考えている。

●平日と休日で入館者の層が異なるようだが、例えば、利用者層の違いを踏まえてテーマを定期的に決め、空きスペースに書庫の本を移動書架のように展示するといった方法により膨大な書庫の資料を活用できるのではないかと考えるがどうか。

→開架閲覧室にある資料は約 18 万冊で、大半の資料が書庫にある。閲覧室内での月替わりのテーマ展示等で書庫にある本を並べてはいるが、今後はより県民の目に触れることができるような企画を考えていきたい。

●特別支援学校には、点字図書や拡大図書等、障害に対応した図書はどれくらい貸出ししているのか。

→特別支援学校向けのセット資料として整備しているものとしては、バリアフリー絵本 1 セット 34 冊、大きな活字の講談社青い鳥文庫 1 セット 41 冊、その他市町村図書館用として、りんご棚セット 2 セット 30 冊、33 冊、マルチメディア DAISY (デイジー) CD-ROM 12 枚などを用意している。貸出冊数ではないが、参考までに一般閲覧室のバリアフリーコーナーには約 460 点、所蔵している大活字本は 4,500 冊、朗読 CD 等は 660 点である。マルチメディア DAISY も令和 3 年度から導入し、少しずつ増えている。

●ボランティア職員が日常的に点訳作業などもしているか。

→ボランティア職員は書架の整理が中心である。点訳・朗読ボランティアの育成は、秋田県点字図書館や秋田市立図書館等で実施がなされている。

●学校司書同士で意見交換した際、「蔵書点検の前後で貸し出せない期間があるなら教えてほしかった」という意見があった。

●私自身が資料を探しに行った際に、薄いパンフレットが見付けられずカウンターに問い合わせた際の職員の対応がぞんざいと感じ不満を感じたことがあった。もう少し利用者に対しては、丁寧に接してほしいと思う。

●展示については、大河ドラマ等の展示もよいが、私が普段学校で接する生徒はほとんど大河ドラマや朝ドラを見ていない。できれば若者が食いつきそうな展示もぜひやってほしい。

→大変不快な思いをさせてしまい申し訳ない。今後は、職員で共有し注意して業務に従事したい。展示については頂いた意見を参考に工夫したい。

●子どもたちが図書館に来るには保護者の力が必要なため、子どもだけでなく保護者も一緒に楽しめる企画や SNS の発信があればより利用者が増えていくのではないと思うがどうか。

→第1・第3日曜日の午後は「子どもの読書を応援する日」として、子ども連れでも気兼ねなく利用できるよう呼びかけを行っている。今後も親子で本を楽しむ場として続けていきたい。

●「えほんのへや」でボランティアをしている中で、両親揃って子どもと来る方が増えたと感じる。日曜日の館内放送のおかげで、少しぐらい声を出しても大丈夫なんだなと思ってもらえるようだ。展示も大人にとって刺激になっており、大変ありがたいと思っている。

●幼児教育の現場では、保護者の「紙離れ」を感じている。YouTubeなどで手っ取り早く済ませてしまう現状があるため、保育園では子どもが好きな絵本を親にプレゼンするなど、親を巻き込む工夫をしている。県立図書館でも子ども向けだけでなく、親が「あの人が読み聞かせをするなら」と行きたくなるような企画や、恐竜や化石など親も夢中になれるテーマでの企画があれば、親子での利用が増えるのではないかと思う。

(7) その他

●利用者としてのお願いが3点ある。

- ①県立図書館のサイトで蔵書を検索すると、「予約ができません」「書庫にあります」と出るが、書庫と開架の区分が分かりにくく、手続き的に借りにくいと感じるため善処いただきたい。
- ②小学生くらいの子どもが蔵書を検索しても、本の場所が分からないという声がある。例えば本が書籍の番号通りに並んでいなかったり、検索結果が示す書棚に無かったりするようです。「ティーンズコーナー」などに分類されていても小学生には分かりにくい。何らかの工夫をいただけたらありがたい。
- ③男子トイレに本を入れるトートバックなどを掛ける場所がないため、フックをつけていただきたい。

→検討させていただきたい。

その後館内見学を実施。

(8) 閉会